

第1章 はじめに
（計画の基本的事項）

計画の目的、位置付け、構成などの基本的な事項を述べる

- 改訂の背景
- 目的

<本計画でめざすもの>

①生駒の景観の特性（生駒らしさ）を認識し

<景観特性>

②その上で前提とすべき「基本原則」に則って、

<基本原則>

③景観を構成する（成らしめている）要素を読み解き認識し、

<構成要素・キーワード（パターン）>

④市民・事業者・行政が自ら考え、協働のものとて景観形成を図る

<方針・推進方策>

計画とする

- 位置付け
- 基本計画の構成
- 景観とは、景観まちづくりとは

第2章 生駒の景観形成の基本理念と景観特性

生駒の良好な景観の形成に向けた基本理念を示すとともに、景観特性（なり立ち）を明らかにする

1 基本理念

生駒の良好な景観の形成に当たっての基本的な考え方や姿勢を示す

2 生駒の景観特性

生駒の景観をどう認識していくのか、を示す

景観特性

1 地勢

地形・流域など「大景観」として生駒のアイデンティティを体現

2 地域性

自然、田園、市街地景観など「中～小景観」として場所に応じて多様な特性を持つ

3 暮らし

1、2の景観は人の暮らしの中で支えられている

第3章 生駒の景観形成の基本原則と構成要素

生駒の景観特性を踏まえて前提となる基本原則を定め、それを構成する（成らしめている）要素を読み解くとともに、キーワード（パターン）を抽出する

1 基本原則

特性を伸長するため前提として遵守すべき原則を設定

基本原則

1 地勢

地形の骨格を認識し尊重する

2 場所性

場所の特性を読み解き、調和を図る

2-1. 歴史・文化の文脈

歴史・文化の文脈を受け継いでいく

2-2. 市街地開発の文脈

市街地開発の経験を学び蓄積を生かす

2-3. 界隈の空気

界隈が醸す空気を読み調和させる

3 暮らしの営み

暮らしの関わりの中で景観を育てる

2 構成要素とキーワード

原則に則って景観を読み解き、その背後にある構成要素とキーワード（パターン）を明らかにする

構成要素

キーワード(パターン)

(1)流域の谷空間	
(2)聖なる生駒山	
(1)大地と一体となった集落	
(2)共同生活と信仰	
(3)伝統的な要素	
(1)骨格となる地形との対話	
(2)通りの空間尺度	
(3)敷地の表情	
(4)人々を迎え入れる駅前空間	
(1)機能的でありながら調和した幹線道路の空間	
(2)商店街の親密な空間構成	
(3)駅を中心とした日常のゲート空間	
(1)生業の風景	
(2)仮設の風景	
(3)身近な環境改善のアクション	
(4)人々の原風景	

第4章 景観形成の方針

第3章で抽出した基本原則、構成要素をもとに、具体的にどのように取り組んでいくのか（キーワード（パターン）をどう使いこなしていくのか）の方針を記載する

第5章 景観形成の推進に向けて

市民、事業者、行政でどのように取り組むか、取り組みのステップと役割分担を記載する